



わたしの“推し”本

書名 収容所(ラーゲリ)から来た遺書

著者名 辺見じゅん

出版社 文藝春秋

ご感想、おすすめポイントなどご自由にお書きください。

第二次世界大戦の敗戦後、ソ連軍に不当に抑留され、捕虜となった多くの日本人がおられます。

この作品は、シベリアにおける極寒、飢餓、重労働といった過酷な強制収容所(ラーゲリ)生活の中、生きることへの希望を捨てず、多くの仲間たちを励まし続けた山本幡男(やまもとはたお)さんとそのまわりの人たちの物語です。

残念ながら山本さんは、過酷な収容所生活の中、病に倒れ、祖国の地を踏むことは叶いませんでしたが、敗戦から12年目にして山本さんの遺族が手にした6通の遺書は、厳しいソ連監視網をかい潜るため、彼を思慕する仲間たちの、実に驚くべき方法により届けられたものだったのです。

奇跡がエピソードで明らかになる感動の実話です。

